



## “紙”なのに酸素・香りをバリアする 紙製バリア素材「シールドプラス®」シリーズ 欧州展開に向けて設備投資を決定

日本製紙株式会社(社長:野沢 徹、以下「当社」)は、紙にバリア性を付与した「シールドプラス®」について、当社グループの十條サーマル社(Jujo Thermal Oy、社長:澤村 寿弘、本社:フィンランド・エウラ市)での量産化に向けた設備投資を決定しました。

十條サーマル社は、当社の技術に基づいて「シールドプラス®」の製品開発に取り組んでおり、すでに市場評価の段階に入っておりますが、今回の設備投資により、欧州での本格的な生産開始を目指します。

「シールドプラス®」シリーズは、世界的な“紙”素材への関心の高まりを背景に、当社がご提案する「紙化ソリューション」のひとつとして、国内外で注目されています。当社は、環境意識の高い欧州市場へ「シールドプラス®」の浸透を図ってまいります。

### 設備投資の概要

(1) 生産品種	シールドプラス
(2) 設備投資額	500万€(597百万円) *1€=119.37円 9/20時点の為替
(3) 工事完了予定	2020年7月

### (関連リリース)

- “紙”なのに酸素・香りをバリアする 紙製バリア素材「シールドプラス®」シリーズを欧州で展開
- アジアのパッケージ市場へ参入 マレーシア軟包装加工事業会社を買収

### (関連リンク)

- 製品情報

以上